

池ノ内遺跡

池ノ内遺跡は、米子駅の南東1kmの美吉の水田下1mに所在する遺跡です。隣接して目久美遺跡があり両遺跡とも初期農耕文化を物語る代表的な遺跡です。この遺跡からは、弥生時代中期末から古墳時代にかけての水田跡が発見されるとともに、農具や工具、建築部材などの大量の木製品が発見されています。木製品は鋤、鋤、穂積具、えぶり、田下駄、田舟など農耕具が大半ですが、梯子、柱、杭、加工板などの建築部材や斧の柄、容器片、網枠、かんざしなど多種多様なものです。

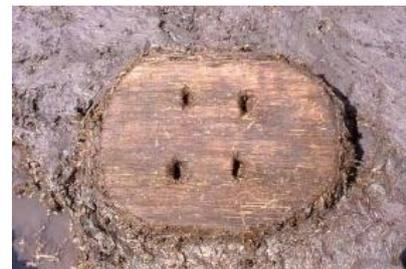
水田跡は小区画の水田で、洪水を受けるたびに新しい畦を作り直していたことが分かり、古代の人々が自然災害と戦いながら水田を切り開いてきた様子を物語っています。



作り直された水田の上下



小区画の水田



田下駄



田舟出土状況



かんざし